東海コープ事業連合

サステナビリティ レポート

TOKAI CO-OP
Sustainability Report

2021

生活協同組合連合会
東海コープ事業連合

東海コープ事業連合の活動報告 発行にあたって

理事長　森　政広

2020年度は、コロナ感染症対応に追われる1年となりました。

昨年2月から、宅配、店舗とも利用が増え始め、マスクや紙製品の欠品が始まり、2月27日の突然の休校要請、4月16日の全国緊急事態宣言で宅配は急激に利用が増加し、4月末から5月にかけて、利用のピークを迎え、物流センターが限界に達する状況となりました。組合員の皆さんには、欠品や抽選での商品のお届けとなり、ご迷惑をお掛けしました。7月には、物流も落ち着きましたが、宅配は高い利用が続きました。

このコロナ禍の中で、私たちの事業と活動がいかにたくさんの方に支えられているかを実感しました。メーカー・生産者の皆さん、物流を支えていただいた委託業者の皆さん、そして職員へ温かい励ましの手紙や声をかけていただいた組合員の皆さん、自ら感染するかもしれない状況の中、奮闘していただいた職員に支えられ、事業を継続することができました。支えていただいた皆さんに感謝するとともに、生協への期待の広がり、くらしになくてはならないインフラを支える生協としての責任がより大きくなっていることを実感しています。

2021年も、例年以上に不透明な状況ですが、少なくとも21年上半期は、ワクチン接種が始まっても、感染症の終息が見えない状態が続くと思われます。このような状況の中で、会員生協とともに組合員のくらしに向き合い、組合員の声に応えていきます。

世界に目を向けると、地球温暖化や相次ぐ自然災害の中で、SDGsへの関心も高まり、昨年10月に日本も2050年温暖化ガス実質0目標を宣言しました。米国もパリ協定に復帰し、今年は各国の行政や企業、団体で取り組みが急速に進むと思われます。

生協も、SDGsの目標に向かって、より具体的な行動が求められています。エシカル消費を推進し、環境にやさしい仕組みに変革し、より持続可能な事業とくらしをめざし、組合員、取引先地域の皆さんと力を合わせて進めていきます。皆さんのご理解、ご協力よろしくお願いいたします。

2021年6月

東海コープ事業連合の理念

未来につながる安心生活
東海の豊かな自然と、
人と人のつながりを大切にします

東海コープ事業連合 第4次中期計画 | 2019–2021 |

基　調

1. 事業連合に関する組合員の要望を着実に実現する取り組みをすすめます。
2. 会員生協の要望に積極的に応える取り組みをご一緒にすすめ、共同購入・宅配の年1%の事業伸長をつくります。
3. 受託した業務の高度化に取り組むとともに、中期的な事業連帯に対応できるよう、政策立案力や執行力を強めます。
4. 事業連合として、人づくり担い手づくりについて、教育を重視して取り組みます。

第4次中期計画では、第3次中期計画で実現してきた取り組みを深化させながら、多様化する組合員のくらしの変化や要望を着実につかみ、応え、くらしに貢献していきます。

SDGsは生協・協同組合の理念と重なり合っています

生協は、助けあいの組織として、誰もが笑顔でくらすことができ、持続可能な社会であることをめざしてきました。誰も取り残さないというSDGsが求めるものは、生協の理念と重なり合っています。世界を変えるための壮大な目標であるSDGs、達成には一人ひとりの日々の生活や意識を変えることが不可欠です。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGs（持続可能な開発目標）とは

2015年9月ニューヨーク国連本部において、150を超える国連加盟国首脳が参加のもと、国連持続可能な開発サミットで採択されたものです。2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた、17の目標と169のターゲットからなる「持続可能な開発目標（SDGs）」です。
本報告書では、SDGsの目標と関わりのある生協の事業・活動の事例にSDGsのアイコンを掲載しています。

1 貧困をなくそう	あらゆる場所のあらゆる形態の貧困を終わらせる
2 飢餓をゼロに	飢餓を終わらせ、食料安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する
3 すべての人に健康と福祉を	あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を促進する
4 質の高い教育をみんなに	すべての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する
5 ジェンダー平等を実現しよう	ジェンダー平等を達成し、すべての女性及び女児の能力強化を行う
6 安全な水とトイレを世界中に	すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する
8 働きがいも経済成長も	包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を促進する
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	強靱（レジリエント）なインフラ構築、包摂的かつ持続可能な産業化の促進及びイノベーションの推進を図る
10 人や国の不平等をなくそう	各国内及び各国間の不平等を是正する
11 住み続けられるまちづくりを	包摂的で安全かつ強靱（レジリエント）で持続可能な都市及び人間居住を実現する
12 つくる責任 つかう責任	持続可能な生産消費形態を確保する
13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる
14 海の豊かさを守ろう	持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し、持続可能な形で利用する
15 陸の豊かさも守ろう	陸域生態系の保護、回復、持続可能な利用の推進、持続可能な森林の経営、砂漠化への対処、ならびに土地の劣化の阻止・回復及び生物多様性の損失を阻止する
16 平和と公正をすべての人に	持続可能な開発のための平和で包摂的な社会を促進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供し、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築する
17 パートナーシップで目標を達成しよう	持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

INDEX

P.03 1 コープのエシカルな取り組み
P.05 2 多様化する組合員のくらしに応える企画づくり
P.07 3 商品の改善・開発
P.08 4 くらしにお役立ちできる店舗へ
P.09 5 物流の改善・生産性向上の取り組み
P.10 6 より便利に商品を利用できる注文の仕組みの改善
P.11 7 安全と安心の取り組み
P.13 8 会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み
P.13 9 職員の学習と働きやすい環境づくり
P.14 10 コロナ禍、くらしに合わせたサービスを提案
P.14 11 運転とくらしの保障を通して地域や職場に安全と安心・笑顔をお届け

1 コープのエシカルな取り組み

エシカルとは「倫理的」という意味です。
生協では地球や環境、社会や人々に配慮してモノやサービスを買うことを
「エシカルなお買い物」（エシカル消費）と表現し、積極的に応援しています。

CO･OP洗剤 環境寄付キャンペーン

対象のCO・OP洗剤1品につき0.5円、WWFジャパンを通じて「インドネシア西カリマンタン州の小規模パーム農園の持続可能な生産を支援する」プロジェクトに寄付されます。

●取り組み期間：2019年5月4週～2020年5月3週
●寄 付 金 額：344,759円（宅配316,456円、店舗28,603円）

飢餓に苦しむ子どもたちに給食を。学校に行けば食べられる、学べる。

レッドカップキャンペーン

「コープヌードルシリーズ」を中心に、商品案内10月1週（40号）特集紙面で紹介しました。1品購入につき1円を国連WFPに寄付しています。

●取り組み期間：2020年10月1日～11月10日

CO･OPコアノンスマイルスクールプロジェクト

コアノンロール1パック購入につき1円、ユニセフを通じてアンゴラ共和国に寄付される活動です。寄付金は、「アンゴラの子どもたちの教育環境を向上させる」ために使われます。

●取り組み期間：2019年11月1日～2020年10月31日（第10期）
●寄 付 金 額：951,822円（宅配860,127円、店舗91,695円）

ディルマ スクールバッグ提供支援プロジェクト

エシカルの取り組みとして、組合員と一緒に支える、「スクールバッグ提供支援プロジェクト」を2017年8月からはじめています。ディルマ紅茶製品を組合員に1点利用いただくごとに、1円を支援金として拠出。2020年度は2021年1月から小学校に入学するスリランカの子ども達へ、スクールバッグを77個届けられることとなりました。
4月3週（15号）の特集紙面で2019年度の取り組みを紹介しました。

資源保護と環境に配慮した商品活動

コープの森づくり

商品利用を通して、その商品の原料産地の森・川・海の環境を守り育てる取り組みを、北海道の野付、沖縄県の恩納村、インドネシア・タラカン島で、取引先の皆さんと協力し交流しながら取り組みを進めています。「コープの森づくりマーク」がついた商品の利用1品につき1円を、森づくりをするための苗木代や管理費としています。
2020年度は約220万円を産地に送ることができました。2020年度は、コロナ禍のため、産地を訪問した植樹交流等は実施できませんでした。少人数での植樹資金贈呈式の実施や、リモートによる学習会の実施等の交流を行いました。

野付：植樹資金贈呈式

恩納村リモート講演（職員商品学習会）

●植樹本数の推移

植樹した年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	累計
沖縄県恩納村の里海づくり（サンゴ再生活動）	23	104	208	247	260	260	288	324	306	321	315	2,656
北海道野付のお魚を増やす植樹活動	500	330	50	530	500	530	750	730	700	700	700	6,020
インドネシア・タラカン島のマングローブ植樹活動	—	1,613	1,051	4,300	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	17,464

うなぎ資源対策協力金

2020年10月27日、うなぎ資源対策協力金贈呈式を行いました。2020年度は、コロナ禍のため、供養祭、放流式は行わず、資金贈呈式のみ実施しました。対象期間（5月～8月）中、対象商品の利用1点につき3円を寄付金として拠出します。2020年度、愛知県養鰻漁業協会へ約40万円、鹿児島県ウナギ資源増殖対策協議会へ約8万円の寄付を行いました。寄付することでうなぎ資源の保護、増殖の対策を応援しています。

うなぎ資源対策協力金贈呈式

エシカル特集ページの取り組み

エシカル特集ページとしてスタートして2年目の取り組みとなり、毎週1頁枠を使用して水産・畜産のはぐくみ自慢認証商品や、うなぎ基金、森づくりの取り組み等、生協商品の利用を通じてエシカル消費を進めました。

2020年度7月より農産特集ページにて、栽培自慢コーナーをほぼ毎週掲載でスタート。生産者による多様な栽培上の工夫と努力により、一般慣行栽培に対して農薬と化学肥料の使用回数や量を削減して栽培している『栽培自慢（こだわった栽培）』の商品について、生産者のイキイキとした写真と合わせて、農薬削減のみならず美味しさや環境配慮等の様々な産地生産者コメントも掲載し、利用普及を進めました。

玉ねぎ（環）「環境配慮・循環型農業」

森の間伐材を木炭にし、土壌改良剤に使用することでカーボンオフセットに取り組み、CO_2の排出量を削減した玉ねぎです。産地での取り組みに加えて、東海コープでも供給1点あたり1円を積み立て、森林保全活動の支援に役立てています。2020年度は商品普及時に紙面に二次元コードを掲載し、動画でも商品情報を発信しました。

2 多様化する組合員のくらしに応える企画づくり

要望に応える品揃え・企画づくりと注文のしやすさの両立をめざしました。

「わかりやすい」「選びやすい」をテーマに改善

改善 1

SKU（ケース・1本）

2020年7月1週より、【注文番号の間違い改善】として、
ケースは3桁・1本は4桁に改善しました。

改善前

改善後

改善 2

みやすさ改善

2020年7月1週より、【商品1コマ】のサイズを大きくしました。

●水産部門ページ

改善前

改善後

改善 3

環境配慮商品に マークを付けました

2020年7月1週より、【環境配慮商品】7種類のマークを付けて案内しました。

改善 4

部門の最初のページ

【部門の最初のページ】紙面を
2020年7月1週より、商品特徴やエシカル等の
案内強化をしました。

改善 5

子育て・共働き世帯

【子育て・共働き世帯】紙面を
2020年6月3週より、「時短ごはんのススメ」として
リニューアールしました。

改善 6

予約仕組み改善

2020年10月3週より、予約仕組み改善を行いました。

改善前

予約登録商品3点以上成立で、
1点5円引き

改善後

予約登録商品1点から
2％引き

別冊媒体

別冊媒体毎週発行

2020年9月1週より、StuleCoop【手作り層】、ヘルシーコープ【健康志向層】の2媒体を追加し、
毎週別冊媒体の発行をしました。

第１週

第２週

第３週

第４週

3 商品の改善・開発

組合員の改善要望の「声」に応えました。

声をカタチに 改善・開発事例集の発行

会員生協組合員の商品づくりや商品改善、商品確かめ活動の成果と、商品を中心としたコミュニケーション事例等を掲載しました。組合員・役職員・取引先等への情報発信と共有化をめざし、4月、10月に発行しました。

会員生協組合員の商品づくりの記事

改善した商品の紹介の記事

日本生協連との共同開発

日本生協連との共同開発を進め、5品の日本生協連商品がデビューしました。
モニター活動等、組合員の声を聴き、商品の改善・開発を進めました。

CO・OP 具たっぷり肉まん（国産小麦・豚肉使用）の改善

会員生協組合員を対象に、改善をめざした試作品を評価するモニターを実施し、商品の改善を進めました。

旧包材

新包材

CO・OP 三重県産 あおさのり（水洗い不要）

会員生協組合員を対象に、開発商品の試作品を評価するモニターを実施し、商品の開発を進めました。

商品開発	2020年度
日本生協連との共同開発	5
組合員検討	3
合　計	8

（リニューアルを含むデビュー商品数）

商品改善	2020年度
4月発行	4
10月発行	6
合　計	10

（改善・開発事例集で情報発信した商品数）

商品モニター	2020年度
CO・OP商品共同開発	2
一般商品新規	16
合　計	18

（2020年度に取り組みを実施した商品数）

web広告、ハピハピボックスの取り組み

web広告

地域の皆さんへ、コープの宅配を広くお知らせし、加入いただくことを目的としたWEB広告を展開し、3生協で一緒に仲間づくり活動に取り組みました。

ハピハピボックス

赤ちゃん誕生のお祝いと子育てに奮闘するご家族を応援するための取り組みとして2019年4月にスタートした「ハピハピボックス」プレゼントの取り組みは今年で3年目を迎えました。テレビCMは、毎週月曜日と木曜日の週2回、夕方6時56分頃に中京テレビ「キャッチ！」の「かぞくのめばえ」コーナーで放送中です。

●2020年度実績

	お届け数	加入実績
ぎふ	4,906名	1,459名
あいち	16,649名	4,188名
みえ	3,348名	965名
東海コープ（全体）	24,903名	6,612名

4 くらしにお役立ちできる店舗へ

会員生協から受託してサポートしています。

新型コロナウィルス感染症対応

新型コロナウィルス感染症の拡大による緊急事態宣言が発出される中、2020年1月末にはマスクが品薄に、2月末には紙類、3月の学校休校以降は冷凍食品を中心に品薄になる等、一時的な利用の集中がありました。他の量販店に先駆けて導入したソーシャルディスタンス、レジガード等感染拡大防止策に努めながら、日々の営業を行いました。「組合員からはコロナ禍でも営業してくれてありがとう」の声を多数いただきました。

商品力・惣菜強化の取り組み

惣菜部門では、小幡店リニューアルの取り組みとしてベーカリー部門で焼き上げたパンを使ったサンドイッチを製造しました。

鮮魚部門で加工した生まぐろを使用した商品づくりを行いました。他部門と連携した商品づくりを進めました。

人気のカツ丼は、よりおいしい商品となるよう、コンサルタントと商品開発に取り組みました。新たに下津醤油製造の専用カツ丼タレの開発、野菜の調理方法の改善を行いました。

業務改善（生産性向上）

店舗での会員生協ごとの要望を踏まえ、店舗間での5S等の作業改善を推進しました。作業改善を進め、人時生産性を高めることをめざしました。現場での問題点を見つけ、会員生協・業務改善推進室が改善策を示し、実践・検証を行いました。店舗で働く職員が働きやすい環境を整え、同時に生産性を高めることで収益を向上させることを目標として取り組みました。

在庫削減（鮮度・商品管理）では、EOB・生鮮EDIを使った商品管理ができるようになり、過度の在庫を持たず、鮮度アップと、廃棄も減少しました。

※EOB：Electric Order Bookの略。仕入れ先と電子データのやりとりの中で発注に関する部分。
※EDI：Electronic Data Interchangeの略。日本語では「電子データ交換」受発注から納品までをカバーした「企業間電子商取引」。

改善前

改善後

5 物流の改善・生産性向上の取り組み

会員生協の業務効率改善と並行して、基幹物流の改善を進めています。

物流生産性向上に向けた取り組み

物流センターでは昨年に引き続き、桑名SC・小牧ドライSC・小牧要冷SC・農産SCにて、
委託先様と改善課題についての優先順位、対策案の検討と改善の実行「安全に・正確に・楽に・早く」とより効率の良い作業を目指し、
人手不足に対応するため、生産性向上を継続して追及し幾つかの改善効果が生まれました。

物流センター改善の取り組み（4セットセンター）

桑名SC　蓄冷剤投入場所での忙しい作業と負荷を減らす。

改善前

シッパーに投入する蓄冷剤（緩衝剤）は、冷凍庫からの搬送+蓄冷コンテナからの取り出し+投入者への渡し+蓄冷剤投入+空コンテナとドーリー片付けを全て手狭なスペースで行っていた。

改善後

蓄冷剤投入用のキャリー導入と投入場所の変更、移動距離が伸びた分は、AGV（無人搬送機）を導入して作業負荷の軽減と省人化

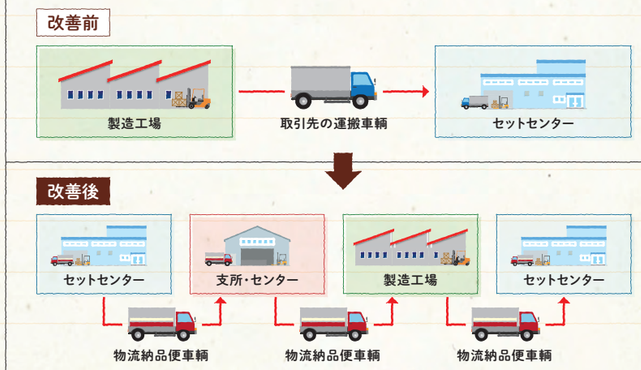
↖ チェンジャーから投入することで作業時間の短縮

↑ 600枚の緩衝剤が収納できるBOXを作成し、保管スペースの縮小することで以前の逼迫した作業スペースが解消

AGVでの無人搬送 ↗

小牧ドライSC　物流コスト削減の取り組みとして、取引先様との調達物流

- 組合員へお届けする商品は、取引先から物流センターに納品され、班・個人別にピッキング集品を行い、その後配送の支所センターへ納品となる。
- 取引先の近くの支所センターへ納品する帰り便で、取引先の商品を調達することで、運搬コストを削減できる。
- また、東海コープが管理することで、渋滞や通行止め等の遅延対応が無くなる。一方の配送委託業者はトラックを増やすことなく売上増（CO_2削減効果）。集荷時に数量を検収することで、入荷での検収を省くことができる。
- 2020年度は九鬼産業、下津醤油、みえぎょれんと調達を進め、現在は8社と実施している。



農産SC

- 以前は、農産SCの加工スペースから集品エリアまでの導線が長いことで、同じエリアを何度も往復、また商品を確認するため付近まで行って探していた。そのために歩行距離も長く、探す時間と搬送する時間もかかり作業者の負担となっていた。
- 改善では歩行距離と探しを減らすために、加工エリアのレイアウトを見直し、加工後の商品は搬送付近に置き場所を設置した。
- 運用を変更することで、遠くからでも商品が見つけられ、歩行距離が短くなり補充スペースがスッキリしたことで、商品の確認がしやすくなり、探すということが無くなった。

小牧要冷SC　冷凍低頻度集品の生産性向上施策～集品用保冷BOX

- 小牧要冷セットセンターの冷凍商品は、300アイテムから約600アイテムに取り扱い量を増やしてきた。
- 増加した約300アイテムはライン集品とは別の仕組みで、作業者が指定された商品（数量）を保冷ボックスから取り出し、カートに集品する方式（低頻度集品）で行っている。カートに商品をセットした後、ライン集品に合流してピッキングを行う。
- 集品量の増加に伴い、低頻度集品が追い付かずラインの停止、低頻度集品に掛る人員の増加という課題があった。
- 保冷ボックスについて、補充と取り出しについての改良を検討した。以前の保冷ボックスは表面のみ作業する仕様から、両面使用できる仕様にすることで、作業レイアウトで搬送距離を短縮、また商品サイズに合わせた間口に改良したことで、保冷ボックスを削減し作業スペースを確保することにつながった。

改善前

- 保冷BOX1箱に2SKU入れてカゴ車に2段積みなのでスペースを要する。
- 在庫品を保冷BOXボックスエリアの中央に置いている。スペースも広がり、動線も悪い。BOXの集品と補充が同じ間口なので、集品と補充とが交錯し、どちらかが譲るという手待ちが多い。

- 背も高いので上の箱の上段は取りにくい
- 既存BOXは仕切棚がないので、左右に2SKU置くので、収納性に難がある（左が新タイプの10間口、右が旧タイプBOX）

改善後

- 収納性の高い「3段」と「超低頻度用の10間口」にして使用BOX数を減らし、省スペース化、動線をシンプルに作業者の歩行を減らした。
- 開閉せず補充の有無を確認して後方から補充できるよう、背面の窓付き扉に。
- 扉はすべて下向き開けにして作業性が良くなる。

3段BOX
（左が表、右が後方）
- 開閉せず補充の有無を確認して後方から補充できるよう、背面の窓付き扉

6 より便利に商品を利用できる注文の仕組みの改善

インターネットを含め、注文媒体の新しい取り組みを進めています。

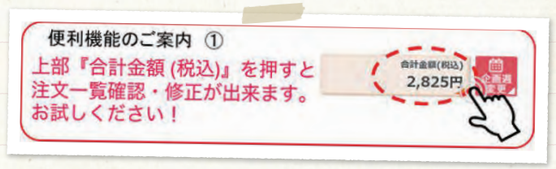
e-フレンズ改善の取り組み

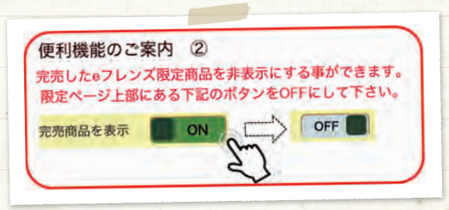
宅配利用の増加にともない、2020年度でe-フレンズからの利用が年末には9万人を超え、宅配全体の注文の約27%を占めるようになりました。e-フレンズ限定企画では、週約1万人の組合員が利用し、週約1,000万円の供給となっています。
e-フレンズが快適に利用できるようサーバースペックを向上させる等の改善を進めました。

e-フレンズ利用人数（週平均）		シェア率
2018年度	56,893人	20.5%
2019年度	63,953人（+7,060増加）	24.7%
2020年度	83,990人（+20,037増加）	26.7%

※シェア率とは、宅配全利用のうち、e-フレンズで注文する組合員の比率

▶ これまで実施してきたe-フレンズの改善内容を、サイト上であらためてご案内しています。





7 安全と安心の取り組み

会員生協や商品部と連携し、お申し出対応レベル、管理レベルの向上に取り組んでいます。

2020年度 品質保証の取り組み

商品の企画
・仕様書点検
・新規商品検査

→ **商品の製造・生産**
・工場点検
・産地点検

→ **お届け**
・お届けする商品の検査

→ **組合員の声（お申し出）**
・お申し出の検証

フィードバック

仕様書点検　約4,500件
不使用添加物やアレルゲン表示等のチェックを行いました。

新規商品検査　411件
取引前の商品を確認するために、微生物229件、残留農薬16件等の検査を行いました。

産地・工場点検　95件
東海コープが実施した点検38件、取引先が実施した点検57件コロナ禍の中、可能な点検を進めました。

お届けする商品の検査　9,408件

検査分野	検査件数
微生物	8,666
残留農薬	324
アレルゲン	146
ヒスタミン	114
食品添加物	83
残留放射性物質	44
その他	31

お申し出の検証
お申し出の発生状況を監視し改善につなげました。

リスクの早期発見と迅速な対応ができました

商品検査による対応事例
「小麦不使用」と表示している冷蔵商品で、アレルゲン検査により「小麦」が検出されました。配達初日（月曜日）に検査結果を出せたため、初日の組合員さんには直ちに電話がけを行い、翌日からの配達を停止する対応ができました。
工場では洗浄で小麦のコンタミが起こらないよう管理していましたが、器具類の分別・使用記録、作業者からの汚染防止、従業員への教育など対策が行われました。

仕様書点検による対応事例
仕様書の点検で「乳」アレルギー表示漏れが見つかり、食品の包材表示の修正とeBASEの訂正ができ商品事故、商品案内へのアレルギー表示漏れを未然に防ぐことができました。

賞味 60日　乳　卵　小麦

商品案内のアレルギー表示マークは仕様書からデータをとるので、正確な仕様書が必要です。

お申し出による対応事例
「薬品臭い」「消毒のようなにおい」というお申し出が同一ロットで多発し製造元に確認を要請しました。
また、同じ製造日の保管サンプル品の確認を商品部と品質保証部で行い、原因は原料に由来するもので正常の範囲と判断できました。

生協間のつながり商品の安全・安心を高めています
「品質保証連携強化委員会」のもと業務プロセスの標準化と人材の育成・教育を進めるために「お申し出対応」「工場・店舗点検」「検査共同」で共同化を進めています。
2020年度は「お申し出対応の教育動画の作成」、「宅配事業のHACCPガイドラインの作成」、「検査手順の標準化（一般生菌数など）」が進みました。

日本生協連

品質保証連携強化委員会の取り組み
- 作業部会（工場・店舗点検、お申し出、検査）での業務ガイドラインの作成、業務の共同化
- 専門分野の教育、人材の育成（品質管理、工場点検、検査など）

情報の共有化
- 全国の生協の取り組み事例の共有化
- 商品情報の共有化

全国の生協

東海コープ
- 品質保証部
- 検査センター

- コープぎふ
- コープあいち　組合員
- コープみえ

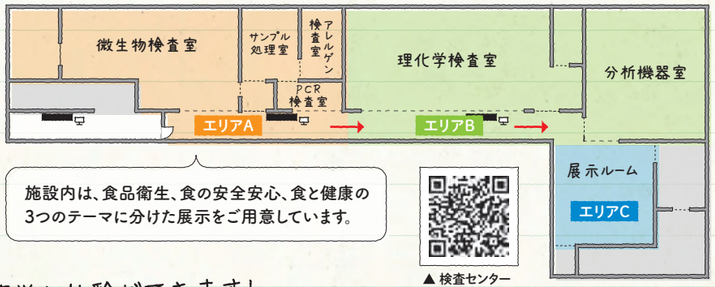
品質管理の力量アップを目指した取り組みを実施しました
お申し出の初期対応のレベルアップを目指して、お申し出対応トレーニングを行いました。各事業所でロールプレイニングによりスキル向上を進めています。

- ゲノム編集学習会を開催しました。京都大学の木下先生を招きゲノム編集の基礎学習会を開催しました。
- 商品部を対象に食品表示や食品衛生の学習会を開催しました。

検査センターが移転し、品質管理と学習・体験機能がレベルアップしました

2020年6月、名東区（コープあいち・東海コープ本部所在地）に移転しリニューアルオープンしました。検査機能は移転前のままで、安全・安心、食と健康について学習し体験できる設備を充実させました。動画や学習資料を閲覧できるようウェブサイトを充実させコロナ禍の中でも情報を提供できるように工夫しました。

見学コース案内



施設内は、食品衛生、食の安全安心、食と健康の3つのテーマに分けた展示をご用意しています。

▲ 検査センターWebサイト

エリアA　食中毒予防で最も重要な食品衛生の基本を学ぶとともに、微生物検査の様子を紹介します。

エリアB　農薬や食品添加物等の理化学検査について紹介します。食の安全について学習できるエリアで、高性能な分析機器もご覧いただけます。

エリアC　食と健康に関する情報を中心に、生協の様々な取り組みを、模型を使った展示や簡単な体験でご紹介します。

簡単な体験ができます！

手洗いチェッカー
新型コロナウイルス対策で手洗いが見直されています。手洗いチェッカーは汚れに見立てた専用ローションで手洗い後の洗い残しを確認することができます。写真では青く光っているところが洗い残しです。

ベジチェック
一日に350gの野菜を摂るのが理想的ですが、自分がどれだけ摂れているかはわかりにくいものです。ベジチェックは手のひらをセンサーに20秒ほどあてるだけで野菜の摂取量を測定することができます。

フードバンク活動

パッケージ変更や賞味期間が基準より短くなり、処分せざるを得ない商品を、NPO法人セカンドハーベスト名古屋とNPO法人フードバンクぎふを通じて支援を必要とするご家庭や諸団体にお届けしています。
2020年に提供した量は54.4トンでした。コロナ禍の影響でフードバンク活動も一部縮小されたため2019年より減少しました。個人への支援はコロナ禍でも継続され、昨年より1割多い5,600世帯の方に食糧の詰め合わせをお届けしました。公的自立支援の「食分野」として、着実に地域に根差した活動となっています。鈴鹿市社会福祉協議会へは906個の日用雑貨品を提供し、食にとどまらないくらしの支援にも取り組んでいます。

↖ セカンドハーベスト名古屋

↗ フードバンクぎふ

●セカンドハーベスト名古屋への生協商品提供と支援まとめ（2020年）　生協からの提供

カテゴリー	個数			重量（kg）		
	2018	2019	2020	2018	2019	2020
一般食品	46,296	52,611	53,481	12,834	15,478	14,469
パン	27,787	27,357	21,921	9,373	9,228	7,198
冷凍食品	19,620	17,696	15,701	6,827	9,357	7,195
冷蔵食品	41,060	37,689	23,813	13,735	13,283	9,980
青果	-	-	-	3,302	14,854	11,761
合計	134,763	135,353	114,916	42,769	62,200	50,602

●セカンドハーベスト名古屋での活用　※青果は個数を数えません

区分	カテゴリー	支援件数			重量（kg）		
		2018	2019	2020	2018	2019	2020
個人支援	一般食品	4,4844	5,066	5,656	7,619	7,856	8,858

区分	カテゴリー	支援回数			重量（kg）		
		2018	2019	2020	2018	2019	2020
団体支援	一般食品	1,128	1,260	1,639	5,215	6,829	5,915
	パン	1,493	1,492	1,207	9,373	9,228	7,198
	冷凍食品	1,813	2,272	1,535	6,827	9,357	7,195
	冷蔵食品	1,557	1,555	1,049	13,735	13,283	9,980
	青果	261	892	695	3301.9	14,854	11,761
合計		11,096	12,537	11,781	46,070	61,406	50,907

●フードバンクぎふ 生協商品の引取りと支援配布のまとめ（2019年）

	生協からの提供				活用（配布支援）		
	個数	重量（kg）			件数	個数	重量（kg）
		牛乳	冷蔵食品	合計			
2020	12,410	1,066	2,795	3,861	2,000	12,410	3,861

鈴鹿社会福祉協議会	2020.5.10～2021.1.10	906個

8 会員生協とともに進めるリサイクルの取り組み

資源リサイクルの取り組み

組合員にお届けした商品案内や容器を会員生協を通して回収し、再生品の原料として活用しています。

（単位：kg）

商品案内等	商品案内等	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
商品案内等（紙類） 再生紙の原料としています。	配布量	11,147,528	12,624,488	11,985,990	11,486,843
	回収量	8,548,071	9,419,762	9,220,470	8,523,610
	回収率	76.7%	74.6%	76.9%	74.2%

（単位：kg）

卵パック	卵パック	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
卵パック（A-PET） 再び卵パックなどの原料としています。	配布量	154,714	156,862	163,674	182,173
	回収量	83,375	82,557	96,813	96,854
	回収率	53.9%	52.6%	59.1%	53.2%

（単位：kg）

内　袋	内　袋	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
商品とカタログのお届け用ポリ袋 「ハンガー」、「クリアファイル（文具）」、「建設資材」などの原料としています。	配布量	322,079	321,371	331,261	359,684
	回収量	151,796	171,380	139,841	145,554
	回収率	47.1%	53.3%	42.2%	40.5%

9 職員の学習と働きやすい環境づくり

職員の学習

2020年度の教育研修計画に沿って、パソコン環境を活用したeラーニングの学習を実施しています。
パソコン環境のないパート・アルバイト職員には、教材を配布し職場学習を実施しています。
2020年度は、「ハラスメント」「労務管理・健康管理」「倫理方針・行動規範」「BCP災害対策」「内部統制・個人情報保護」をテーマとしました。

働きやすい環境づくり

2020年6月1日よりハラスメント防止対策が法制化され、パワーハラスメント防止措置が事業主の義務となりました。東海コープにおいても、多様な労働者が活躍できる就業環境を整備するため、パワーハラスメント防止のための事業主の雇用管理上の必要な以下の措置を明示し、職場に周知しました。

1. ハラスメント定義の明確化と周知
2. 相談に応じ適切に対応するための体制整備
3. 発生時の迅速かつ適切な対応と再発防止
4. 相談者のプライバシー保護や、不利益取り扱い禁止の周知

10 コロナ禍、くらしに合わせたサービスを提案

新型コロナウイルスの影響により、外出型消費から巣ごもり消費にシフトした生活様式へと様変わりしました。

在宅中心の生活が続く中、清掃、学習教材、手芸頒布会、不用品宅配買い取り、健康関連の需要が伸長。

自宅時間が増え、掃除に気を使う方が増加しました。用途に応じた7種類のレンタルモップは、本誌掲載により、利用者拡大につながりました。また家庭用学習教材「スマイルゼミ」も大きく伸長しています。

シニア向け商品、健康関連商品の導入と育成。

コープあいちを対象に「不用品整理・処分（生前整理）」の紹介を開始しました。アミノインデックス®がんリスクスクリーニングに加え、大腸がん検診を導入し、643点の利用実績となりました。

チケットのお届け方法の改善を実施。

商品配達時でのお届けをなくし、組合員登録住所への発送に変更しました。伴ってお届け明細、統合DBの表示も見やすく改修、チケットお届けに伴う支所・センターでの負担を改善しました。

11 運転とくらしの保障を通して地域や職場に安全と安心・笑顔をお届け

運転部

安全運転教育の目的は、自分でものを考え、自分で判断し、その結果に責任を持つ自立した生協人を育成することです。
教育として、新入職員安全運転研修、安全運転主任トレーナー研修、認定更新訓練、管理者研修等を実施しました。春・夏・冬の交通事故防止運動の取り組み、「ドライバーのチエだめし」「事例研究」等の学習教材を毎月提供しました。
また、2020年度は道路交通法抜粋の改訂版を発行し、正しい知識の習得に役立てました。

↖ 新入職員安全運転実技訓練

↖ 安全運転トレーナー研修

保険部

▶ 新商品『コープの三大疾病保険』に1,300件の新規加入をいただきました

新しい全国制度の団体保険『コープの三大疾病保険』は、2019年12月から新規募集を開始しました。募集方法は配達時に商品案内と一緒に配布するチラシの他に、CO・OP共済や団体保険のご加入者対象にダイレクトメールを送付。また、生協で働く職員対象にキャンペーン等を行いました。コロナ禍の中、活動は制限されましたが、年間約1,300件の加入がありました。

↖ コープの三大疾病保険チラシ

東海コープ事業連合

サステナビリティ レポート

TOKAI CO-OP
Sustainability Report

2021

生活協同組合連合会
東海コープ事業連合

東海コープ事業連合の事業の概要

2021年3月20日現在

■事業の概要

名　　称	生活協同組合連合会 東海コープ事業連合
本　　部	愛知県名古屋市名東区猪高町 上社字井堀25-1
設　　立	1994年4月1日
区　　域	岐阜県・愛知県・三重県
総事業高	938億円(2020年度)
出資金	9.86億円(2020年度)
職員数	641人(パート含む2021年3月20日現在)
東海3生協の組合員数	968,646人(2021年3月20日現在)

■事業内容

商品事業	商品の仕入れ・調達、商品の開発・改善、 お申し出管理、品質管理業務・商品検査業務
宅配事業	宅配商品の商品案内書作成・企画、受注業務
店舗事業	店舗商品の仕入れ・調達、企画、店舗開発と出店計画
情報システム事業	宅配・店舗事業のシステム開発・運用
物流事業	宅配・店舗商品の仕分け事業、 会員生協配送センターまでの物流管理
生活サービス事業	旅行事業、提携事業、チケット取扱い業務

■子会社の概要

株式会社東海コープ安全運転センター

所在地	名古屋市東区東桜2丁目9番1号 高岳セントラルビル8F
業務	損害保険代理事業、 生命保険募集に関する業務、 運転実技研修の実施、教材の企画制作、 運転教育に関わる会員生協等からの 受託業務

お問い合わせ：経営管理部　TEL 052-703-1769　FAX 052-703-5567

発行日：2021年6月16日　発行者：生活協同組合連合会 東海コープ事業連合

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC www.fsc.org FSC® C016129

FSC® 認証マーク
FSC® 認証は独立した非営利の国際組織であるFSC®（森林管理協議会）が森林管理基準に照らして、環境保全の観点から適切に管理され、責任ある森林管理がされている森林を認証する制度です。この冊子は、FSC® 認証された森林から産出した木材製品である紙を使用して製本しています。

VEGETABLE OIL INK

ベジタブルインクマーク
この冊子は、印刷インキ工業連合会が定めた大豆油、亜麻仁油、桐油、ヤシ油、パーム油等植物由来の油、及びそれらを主体とした廃食用油等をリサイクルした再生油を使用した植物インキを使用し、印刷しています。